

企業紹介

森の工房

木製品製造販売

企業名 森の工房
 代表者 橋本 和吉
 所在地 福島県二本松市大関438 - 7(本店)
 ☎0243(24)2965
 猪苗代ショップ 耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字波波帰目
 1110 - 1(野口英世記念館東側)
 ☎0242(72)1448
 H P <http://www.noahhouse.com/woodcraft/>
 職員数 6人(男4・女2)
 事業内容 木製品製造販売

企業の特徴

森の工房は安達太良山の東麓、岳温泉に近い高原にあります。ブナやナラなど無垢の広葉樹を使っておもちゃや小物を工房で製作し、隣接の店舗ではオリジナル品の他500円のキーホルダーから25万円の「木の絵」まで、おもちゃ、文具、台所用品、インテリア小物など「木」で出来たものばかり約800点を販売しています。

オーナーの橋本さんは工業高校卒業後、ビルや工場の設備管理の仕事に約8年間従事しておりましたが、趣味の登山を通じて知り合った女性と結婚したことを機に、二人で同じものを見つめ、同じ時間を共有するために何が「ものを作り出す仕事」と昭和62年に脱サラを決意、その後民芸品工房に入って木工と出会い、物づくりが好きなことに加え、持ち前の手先の器用さで短期間に基礎的な技術を修得しました。

昭和63年に三春町の実家で現在の前身である「風人舎」を設立し木工の仕事を始めましたが、資金が無くてもろくな機械もそろえられぬままのスタートで、営業力も乏しくほとんど商売にならず生活費にもことかく日々が過ぎました。徐々に機械もそろえまともな物が作れるようになったのは一年後のことでした。

お土産品の問屋や小売店等に商品を置いてもらいなんとか仕事の量は確保できたものの、自分たちの作りたいものも作れず、単価も安く相変わらずの苦しい生活が続き、「自分で作って自分で売る」ということを決意、さらに、もっと自然の豊かな場所で仕事と生活をしたいという自然派の二人の夢を重ねて、二年に渡る場所探しのすえ、平成5年4月に現在の場所へ移転することになりました。

初めは「こんな場所では商売にならない」と銀行にも相手にしてもらえず、あるだけのお金をはたいて

建てた小さなプレハブに店と工房と住宅を押し込み、水道も風呂もないという生活が始まりました。

ところが大方の予想に反し、思いがけずたくさんのお客様が来店、一番驚いたのは誰でもない橋本さんだったとか。

複雑になっていく社会の中で「木の温もり」が心の癒しともいえるイメージを与えたのか、自然や環境に対する社会的な動きがプラスになったのか、とにかく順調な滑り出しになり、アルバイトも一人二人と増え工房も少しずつ増築することができました。

平成7年に火事で全てを失ってしまうという災難もありましたが、店も工房もひとまわり大きく再建し、さらに販売形式の多様化に乗り遅れることなく店売りの他に通信販売、インターネットHP開設による販売、百貨店の物産展への参加などを積極的に行い、今年3月には猪苗代町の野口英世記念館東側に新たな販売拠点をオープンさせました。

工房で生産する商品は大手の工場などと差別化を図るため、たとえ値段は高くても無垢の良質な材料にこだわり、オリジナルデザインで手作業行程の多い丁寧な作り方に徹しています。また、熱帯樹合板を使用しない、天然植物油原料の安全で無公害な塗料を使用するなど、環境面でも徹底的にこだわり、決してごまかさないとこの姿勢が高額の商品を安心して購入していただける重要なポイントだということです。

そしてまた、自然の豊かな高原で夢を追いかけながら物作りをしていることが、木の商品にあふれんばかりの温もりをあたえ、さらにストーリー性という付加価値をプラスしているという考え方をしており、現在100点近くあるオリジナル品は人気が高く、作っても作っても間に合わないのが悩みの種だそうです。

